

Rotary



世界に希望を生み出そう

CREATE HOPE in the WORLD



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 石川 元信

幹 事 谷田部 修

会報・雑誌委員長 田崎 信孝

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ

例会日 毎週火曜日(12:30~)

事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算3011号 2023年8月22日(晴れ) 第7回例会 会員数105名

ハイブリッド例会



点 鐘 石川 元信会長

司 会 副SAA 田嶋会員

◇ロータリーソング「それでこそロータリー」

◇本日のランチ 小付 焼物メンチコロッケサラダ添え
香の物 汁 御飯

ビジター紹介

小林(正) 副会長

◇公益財団法人 メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン
栃木地域会 会長 福田容子 様
事務局長 鈴木朋子 様
渡邊敦美 様(宇都宮東RC夫人の会会長)

会長挨拶

石川 元信 会長

皆さん、お暑うございます。お盆はどのようにお過ごしいただいたでしょうか。ご先祖様がいるから、私たちは今、ここにいます。私たち宗門の方では、生かされていることを感謝し、報恩の行を積みましようと思つたところ、日めくりカレンダーに、「喜んで与える人間になろう。物があれば物を、力があれば力を、知識があれば知識を皆に与えよう。無ければ自分の中に育てて与えよう。花は美しさを惜まず、小鳥は楽しい歌を惜しまない。誰にでも与えている。与えている時人は豊かになり、惜しむ時命は貧しくなる。喜んで与える人間となろう。」と書いてありました。まさにこれはロータリーの精神なのかなと思っております。

今日の卓話者は宇都宮東RC夫人の会会長の渡邊さんとメイク・ア・ウィッシュの栃木支部の福田さんにご紹介いただきました。メイク・ア・ウィッシュをホームページで調べたところ、「3歳から18歳未満の難病と闘っている子供たちの夢を叶え、生きている力を与えていきたい」とい

うボランティア団体とのことです。アメリカのアリゾナ州で、クリス君という白血病の少年の「白バイ警官になりたい」という願いを叶えたことがきっかけで始まったそうです。今日は貴重なお話が聞けると思います。よろしくお願ひいたします。



幹事報告

谷田部 修 幹事

◇8月29日例会は夜間例会で会員増強例会。事前にFAXしたエントリーシートにご協力を。
◇宇都宮東RC夫人の会の活動の参加者が少ないとのことで、近日中に各会員のご夫人に郵送にてご案内が届くとのことです。ご協力を。



卓話

「夢の力」

公益財団法人 メイク・ア・ウィッシュ オブ
ジャパン 事務局長 鈴木 朋子 様

皆さん、こんにちは。私たちメイク・ア・ウィッシュは、命に関わる重い病気と闘う子供たち一人一人の夢を叶える活動をしているボランティア団体です。アメリカ、アリゾナ州で誕生し、これまでに世界50か国で活動し、50万人以上の子供たちの夢を叶えてまいりました。今日は私たちの活動を知っていただき、多くの皆様にもお伝えいただければ嬉しく思います。

— パワーポイントにて説明 —

何かを願う気持ちはかけがえのないものです。私たちは毎日、いろいろな願い事をしながら過ごしていると思います。でも、重い病気の子供たちは、「よくなったらね」「退院したらね」と先延ばしにされてしまうことが沢山あります。お見舞いに来てくれた人は決まってこう言います。「頑張ってるね」と。「頑張れ」という言葉は、頑張ってもよくなる、そんな絶望や不安と闘っている子供たちには、時にはとても残酷です。私たちは「頑張れ」の言葉の代わりに、「メイク・ア・ウィッシュ、君にはどんな願い事があるの？皆で力を合わせて、君の夢を応援するよ、そして、君にも、家族の皆にも、夢の力を届けるよ。」と。日本では1992年から活動を続けています。私たちのお手伝いというのは、夢の力を通じて「笑顔」と「未来」を届けることです。どんなに重い病気のお子さんにも明日がきます。明日を楽しみに、未来を描いて、前を向いて生き抜いて欲しい、そう願いながら活動しています。対象となるのは、お申し込みの時点で3歳以上18歳未満の命に関わる重い病気にかかっているお子さまで。だいたい、お父様やお母様からお申し込みを頂戴します。「メイク・ア・ウィッシュ」という魔法の言葉を届けて、子どもたちはわくわくしながら自分のしたいこと、会いたい人、行きたいところ、食べたいもの、いろいろ考えはじめます。願う気持ちがあるだけで、子どもたちの毎日が一変します。今日は二人のお子さんのエピソードを通じて、皆さんにも夢の力を届けることができたらと思っています。

◇竹島明聡君のお話

自分自身で杖をつきながら、私たちの事務所を訪ねて、「僕には夢があります。病気になってこれまで頑張っていたテニスが出来なくなりました。でも車椅子テニスだったら出来るのです。この車椅子テニスで世界に羽ばたきたいと思っています。だから、僕の体にぴったりあった、競技用の車椅子を下さい」とお申し込みされました。この時17歳。16歳の時に、骨肉腫のステージIV、肺にまで転移しているという厳しい現実をつきつけられました。彼は、一つ願い事を叶える度、次の夢、次の願いと、新しく夢を描いては叶え、人生を生き抜いてくれました。そんな彼が言葉を残してくれました。「僕は骨肉腫になってすべてを失ったと思った。けれども、結果的にはそれ以上に大切なものを沢山手にすることが出来た。夢をあきらめないこと。その夢は自分一人の力では叶えられない。周りの人の力を借りること。そして、周りの人への感謝を忘れないこと。その感謝に報いるためには自分自身が夢をあきらめないこと。自分

を信じること。僕はメイク・ア・ウィッシュから車椅子を貰った。でも貰ったのは車椅子だけじゃない。夢をあきらめない気持ち、自分を信じる気持ち、その大切な気持ちを貰いました。」

続いてお話するのは、「パパと結婚式がしたい」という夢を叶えたもえちゃんのお話です。

◇もえみちゃんのお話

もえちゃんが、「パパと結婚式がしたい」と思っていることは、病院中で有名なお話でした。主治医の先生から言われたことは、一週間以内にもえちゃんの夢を叶えて欲しい、という厳しい言葉でした。私たちの活動を支えてくださっているのは、多くのボランティアさんたちです。この時も、多くの方が自分のできることをお申し出くださいました。この後お見せする映像も、プロのカメラマンがボランティアで作ってくれたものです。

— 動画の上映 —

バーজনロードを歩くもえちゃんが、あまり嬉しそうでなかった、と感じた方がいらっしやったかもしれません。実はもえちゃんは具合が悪く、ずっと笑わない日が続いていたそうです。笑うって、とてもエネルギーがいることなのです。最後のケーキバイトのシーン、もえちゃんがお父様に無理やりケーキを食べさせようとしたシーン、その姿こそが、お父様とお母様が一番会いたかったもえちゃんの姿だったそうです。「私たち夫婦が一番嬉しかったのは、もえみの笑顔を見ることができたこと、そして、普段のもえみの姿を見ることができたことです。実は、うちの娘は普段はちょっとやんちゃで、いつもパパとじゃれあっている、そんな子だったんですよ。」

メイク・ア・ウィッシュの夢の力、様々な形があります。勇気だったり、元気だったり、そういった力強いものを届けることが出来たり、或いは、当たり前前がけっして当たり前ではなく、それに対する感謝を感じながら過ごすだけでも、これまでと違った毎日をおくることができるのではないかと思います。今日お話を聞いてくださった皆様、それぞれに夢の力を感じてくださって、メイク・ア・ウィッシュ、願う気持ちを忘れずに、そんな生活を過ごしていただけたら、今日、お話しさせていただけでよかったと改めて感じます。これからも、メイク・ア・ウィッシュを応援していただけると嬉しいです。